



あぁ、7年目の地下生活

寄付部門遺伝子制御 助手

岡崎 聡

2月から遺伝子制御寄付研究部の助手として着任しました。昨年の3月に理学部・動物の石川統教授のもとで博士号をとり、その後日本学術振興会の特別研究員として、今年の1月まで博士課程の研究の続きとして、「カイコ」の染色体末端(テロメア)の解析をしてきました。昆虫は、生物界で最も繁栄し多様化している生物といわれていますが、昆虫のテロメアも、ユニークな構造を持つものが多数あることがわかりました。私は、卒業研究からこれまで同じ研究室に所属し、一貫してカイコのテロメアについて研究してきましたが、医科研では、心機一転、材料もテーマもがらりと変わり、伊庭先生の下で脊椎動物のFos, Junについて研究してゆく予定です。

す。遺伝子制御ではレトロウィルスを使った強力な遺伝子導入系の開発も行っており、これらの系を使って将来、おもしろい研究ができればと思っています。

医科研に来る前の本郷の研究室は理学部2号館の地下1階で、薄暗い階段を下りて実験室までかよう日々でした。最初に伊庭先生からお誘いがあったとき、これで地下生活も終わりか、と思ったのもつかの間、また地下1階とは！。大学を卒業して以来、7年目の地下生活に突入することになりました。ときどき医科研の新しいRI実験棟の2階で実験していると、広い窓から見える外の風景がとても新鮮に感じられます。

医科研は基礎と臨床が混じりあった研究所なので、私は、理学部出身として基礎研究を大事にしつつも、臨床への視点も持つよう努力していくつもりです。まだまだ助手としては未熟ですが、医科研の皆様のご指導を賜りながら研究に貢献したいと思っています。

C LINICAL RESEARCH WARD

放射線診療科・放射線室

放射線室の歴史は古く昭和20年頃に始まり、放射線科は昭和44年頃に始まっています。放射線科の医局のある臨床研究A棟はもとサイクロトン棟と呼ばれていましたが、これは昭和48年に当院に設置された中性子治療装置に因んでいます。現在の高村技師長は4代目、私(吉川)も同じ4代目の科長となっています。所属する医師の数は今年4月より1名加わり総勢3名となります。技師の数は技師長を含めて4名です。仕事内容は大きく2つの部門に分かれていて、1つは診断部門で、もう一つは治療部門です。診断部門ではX線撮影(単純撮影、断層撮影、上部および下部消化管造影、X線CT、尿路造影、血管造影などを含む)の診断とラジオアイソトープ(RI)を用いた核医学診断を行なっています。今春より核磁気共鳴現象を応用したMRI検査も加わり、脳や脊髄疾患をはじめ多くの領域の診断を行うことになっています。治療部門では主として悪性腫瘍に対する放射線照射を行っていますが、当院では骨髄移植症例に対する全身照射や悪性リンパ腫に対する全身リンパ節照射の件数が比較的多いことが特徴です。



稼働する装置の数に比して員数が不足しているためご迷惑をかけているかと思いますが、活気にあふれた職場で、迅速かつ正確な仕事を目標に頑張っています。そして患者さんや医療スタッフへのより充実したサービスに勤めたいと思っています。末筆ながら宴会の数でも他に負けないように頑張りますので宜しくお願い申し上げます。